

久我山だより

平成31年1月 31 日

杉並区立久我山小学校

電話(3331)3631 FAX(3247)8415

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/kgugayamashcu/>

●教育調査の結果から●

副校長 瀬川 雅之

平成30年度杉並区教育調査（保護者対象）結果

平成30年12月実施 回収率81.0%			
	今年度 肯定率	前年度 肯定率	前年度 比
1 お子様は、本校の学校生活に満足している。	89	89.7	-1
2 本校は、交流活動など中学校と連携した教育が行われている。	38.8	53.4	-15
3 本校の教育活動について、適時適切に情報提供がある。	76.8	74.4	2.4
4 本校は、安心・安全な学校生活を送ることのできる環境づくりが行われている。	82.7	82	0.7
6 本校は、学校の授業を通して、分かることやできることが増えている。	91.1	91.8	-1
6 お子様は、学習について適正な評価を受けている。	89.2	86	3.2
7 本校は、ICT機器【電子黒板やデジタル教科書等】を効果的に活用した授業を行っている。	67.8	75	-7
8 お子様は、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。	89	87.3	1.7
9 お子様は、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康的な生活を送る力が育っている。	90.3	89.8	0.5
10 本校は、特別支援教育に関する情報提供している。	32.5	31.9	0.6
11 本校は、家庭・地域と協力して教育活動を行っている。	73.8	73.8	0
12 本校は、いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、教員が協力して取り組んでいる。	56.1	50.5	5.6
13 本校の教育目標「人にやさしさ 自分につよさ」は、子どもの成長を促している。	74.8	74.1	0.7
14 本校の教職員は、保護者に対し、丁寧に対応している。	90.1	88.1	2
16 お子様は、毎日楽しく学校に通っている。	88.8	92	-3
16 本校の学校だより・学年だより・ホームページ等を身近に感じる。	72.5	73.9	-1.4

平成30年度杉並区教育調査（5,6年対象）結果

杉並区立久我山小学校 平成30年12月実施 回収率96.7%			
質 問 （パーセント）	本年度 肯定率	前年度 肯定率	前年度 比
1 先生たちは、クラスのみんなが分かり合い、協力できるように促してくれる。	91.1	78.3	12.8
2 授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	60.5	52.4	8.1
3 学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	89	83.9	5.1
4 先生たちは、授業で自分ができることを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	91.1	79.7	11.4
6 先生たちは、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	94.5	95.8	-1.3
6 先生たちは、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	81	76.2	4.8
7 道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	90.5	60.8	29.7
8 先生たちは、健康的な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	86.3	73.4	12.9
9 先生たちは、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	77.4	69.2	8.2
10 友達や先生、家族のことなどで悩んだとき、学校に相談できる大人【先生、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域の人など】がいる。	83	77.5	5.5
11 学校では、地震や火事など、様々な危険を予測し、避けるための知識や考え方について学んでいる。	89.1	85.9	3.2

教育調査のご協力にありがとうございました。全体として、昨年度より肯定率は上がっておりますが、安心・安全な学校づくりに向けて学校・家庭・地域の方と連携を深め、児童の一人ひとりが充実した学校生活を送れるようにしていきたいと思っております。

- 「1 お子様は、本校の学校生活に満足している。」の肯定率は、去年比-0.7%の89%でした。これは、100%になることが学校の命題です。児童理解に努め、児童の心情に寄り添った指導をしていきます。
- 「7 本校は、ICT機器（電子黒板やデジタル教科書等）を効果的に活用した授業を行っている。」の肯定率は、昨年比-7.2%の67.8%でした。プログラミング教育の実施が始まります。児童が主体的にICTを活用する機会を設定し、プログラミングの体験を通して論理的思考力を育みます。
- 「12 本校は、いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、教員が協力して取り組んでいる。」の肯定率は、+5.6%の56.1%でした。児童が安心して学校生活をおくるためには、これからも「いじめは絶対にゆるさない。」という意識をより高め実践力を育てます。そのために、

毎月の「いのちの日」の実施・毎学期のいじめアンケートの実施・人権標語の活動・日頃の児童理解に努め、教職員・スクールカウンセラーと情報を共有し、解決に取り組みます。

- ◇ 児童への質問1「先生たちは、クラスのみんなが分かり合い、協力できるように促してくれる。」の肯定率は、+12.8%の91.1%でした。学校の中には、集団において学び合う場です。児童への質問4「先生たちは、授業で自分ができることを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。」の肯定率は、+11.4%の91.1%でした。ペア学習やグループ学習などかわりをもたせ、児童相互に認め励まし合えるように導き、さらに自己肯定感を高めていきます。
- ◇ 児童への質問「7 道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。」の肯定率は、+29.7%と伸びています。「特別の教科 道徳」の授業の充実が見られます。これからも「つながり」「かわり」を大切にして、児童の豊かな心を育てるために工夫した授業を行います。